

平成29年度

橋梁技術発表会及び講演会

会場

**北海道経済センター
8F Aホール**

〒060-8610 札幌市中央区北1条西2丁目
Tel.011-231-1355

13:00～13:10

開会の辞

北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会
委員長 松本 高志

13:10～13:25

橋建協報告

～協会を取り巻く環境と課題、取り組みについて～
(※)広報委員会

第1部:技術発表会

13:25～14:05

1.道路橋示方書はこう変わる

～部分係数体系版の改定内容～
(※)設計小委員会 設計部会 佐合 大

14:05～14:15

休憩

14:15～14:55

2.大正時代のRC床版はどうして 長期使用に耐えられたのか!

～90年以上の使用に耐えた九年橋の撤去床版
から劣化過程を探る～
(※)床版小委員会 床版技術部会 中本 啓介

14:55～15:35

3.ロッキング橋脚を有する橋梁の 大規模地震対策

～名神高速道路 追分橋耐震補強工事～
(※)架設小委員会 架設部会 青山 智明

15:35～15:45

休憩

第2部:特別講演会

15:45～16:45

鋼橋の今後の事業戦略を考える! —観光資源としての橋梁—



ものづくり大学 教授
大垣賀津雄

16:45～16:50

閉会の辞

(※)橋梁技術発表会 実行委員会
委員長 上原 正

(※)は、(一社)日本橋梁建設協会

主催: 北海道土木技術会 鋼道路橋研究委員会
<http://www.koudourokyo.net/>

共催:



日本橋梁建設協会 <http://www.jasbc.or.jp/>
Japan Bridge Association Inc.

参加費無料
定員200名
申込先着順

平成29年

日時

11

2

木

13:00～16:50

申込方法

ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付け」まで
(受付は平成29年9月21日～10月19日)

申込期限

平成29年10月19日(木)

連絡先

鋼道路橋研究委員会 講習・講演小委員会
担当 小笠原 TEL 011-241-4948
日本橋梁建設協会 北海道事務所
担当 竹本 TEL 011-232-0249

継続教育

土木学会認定CPD(継続教育)プログラム(予定)

他地区

東京地区は	10月13日(金)	銀座プロッサムホール
大阪地区は	10月18日(水)	ドーンセンター
中部地区は	10月27日(金)	東建ホール
東北地区は	11月10日(金)	仙台国際センター
九州地区は	11月17日(金)	レゾラNTT夢天神ホール

にて開催です。

(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿(論文)は、当日配布をしておりません。ホームページに掲載しますので、各自ダウンロードして持参して下さい。(PPTの出力は当日配布します)

アクセス



●地下鉄南北線・東西線大通駅より 徒歩7分

●東豊線大通駅より 徒歩2分

●さっぽろ地下街北大通西2丁目「市役所・経済センター出口」より 徒歩1分

技術発表会概要

1 道路橋示方書はこう変わる

～部分係数体系版の改定内容～

道路橋示方書が5年ぶりに改定となり、その内容も現行の許容応力度法から部分係数法へと大幅な変更となる。そこで、おもな改定内容や留意点について具体的な設計例を交えながら分かりやすく説明する。

2 大正時代のRC床版がどうして長期使用に耐えられたのか!――

～90年以上の使用に耐えた九年橋の撤去床版から劣化過程を探る～

過去の設計基準により建設された鉄筋コンクリート床版(以下、RC床版)は、現行の基準に適合していない床版厚や鉄筋量のまま使用されている場合、車両の大型化や交通量の増大の影響を受け、劣化事例が多く報告されている。

九年橋は、大正11年と昭和8年に建設され、建設当時のRC床版に補修補強等を施すことで、平成27年度に取替えられるまでの80~90年の間、使用環境の変化にも耐え、供用されてきた。

本研究では、直接荷重を受け、非常に厳しい使用環境となるRC床版が、長期間使用することができた理由を探るため、九年橋におけるRC床版の撤去前後に実施した調査結果をもとに、既設RC床版の劣化過程の推定を行った。

3 イズミット橋の工事報告

～上下部一括デザインビルトによる長大吊橋の建設～

2016年7月、世界有数の地震地帯であるトルコに世界第4位の長さを有するイズミット湾横断橋(正式名称:オスマン・ガズィー橋)が開通した。本工事は上下部一括のデザインビルトであり、海底40mの軟弱地盤への海中主塔基礎の設置など厳しい条件の中、わずか施工期間3.5年で開通にこぎつけた。発表では、耐震性の確保と短納期での完工を両立させた構造上、施工上の工夫などについて紹介する。

特別講演会 講演者紹介

鋼橋の今後の事業戦略を考える! —観光資源としての橋梁—

—略歴—

1986年 4月 川崎重工業株式会社入社 鉄構事業部で橋梁の設計を担当
 1991年 2月 (出向)川重工事株式会社 東部支社 橋梁工事部
 1993年10月 川崎重工業株式会社 鉄構事業部 橋梁技術部 係長
 1999年 2月 川崎重工業株式会社 関東技術研究所 構造システム研究部
 主任研究員
 2001年 4月 川崎重工業株式会社 鉄構事業部 橋梁・水門技術部 参事
 2007年 4月 川崎重工業株式会社 営業推進本部 事業開発部 基幹職
 2007年 4月 日本大学 理工学部 社会交通工学科
 非常勤講師(2010年3月まで)
 2010年 4月 首都大学東京 都市環境学部
 非常勤講師(2001年3月まで)
 2011年 4月 川崎重工業株式会社 営業推進本部 市場開発部長
 2015年 4月 ものづくり大学 建設学科 教授

大垣 賀津雄

ものづくり大学 教授

講演概要

世界の歴史的鋼橋はアーチ橋、トラス橋、吊橋が多いことや、特徴のある橋(可動橋など)は鋼材でできており、これらの橋梁の素晴らしさを説明する。さらに、橋の景観デザインについての考え方を紹介し、鋼橋の適用性のよさを概説すると共に、観光資源に成り得るような橋梁の建設が望まれている。その上で、橋梁の今後と発注システムのあるべき姿についての考えを示し、鋼橋の今後の事業戦略について提案するものである。

平成29年度

11月2日(木)

橋梁技術発表会

[北海道地区]

参加申込方法



一般社団法人 **日本橋梁建設協会**
Japan Bridge Association Inc.

ホームページよりお申込み下さい。

<http://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」
の申し込みはこちら。

